

1階エントランスギャラリーから中庭をみる、左側がLDK、右側が客間



西側前面道路から建物全景をみる、左側に玄関、右側に駐車場



中庭越しにメインの建物を見る

設計主旨

普段の生活の中で、内部だけでなく外部空間も使えるような配置計画にすることで、建物に囲まれながらも開放感を持ち、自然の明るさや風の流れを感じられるような生活ができるのではないかと考えました。

開かれた3つの広場、路地のような玄関、内外をつなぐ庭、LDK、客間、家具などが全部一緒にあるような状況をつくることでお互いが関係性を持ちながら、ゆるやかにつながりより広く感じられる住環境をつくることを目指しました。

外観を構成するファサードは、折り紙を折り曲げながらつくられたように見えて、外壁や屋根の天端ラインが螺旋状に上空へと登っていく姿が特徴の住宅になります。

開かれた3つの広場 (図-1)

コモンスペース

敷地南西角の母屋玄関に面する場所にスペースをつくり、母屋と今回計画する建物をデッキを介してつなげることで、双方の往来を可能にします。また、ここは母屋との適度な距離感や採光および風の通り道を確保するためにも重要なスペースになり、ウッドデッキと連続したスペースは縁側的な雰囲気をつくり出します。

ポーチスペース

北西角の隅切部はこの建物の印象を決定づけるとともに街並を形成する大切な場所と考えられます。自然光や緑などの自然を取り入れ、間接照明を用いることでアプローチ空間として演出しつつ、道路を行き交う人々に対しても心地よい雰囲気を提供します。

パーキングスペース

いかにも駐車場という雰囲気にならないように、そして車の有無に関わらず、建物のデザインを損なわないようにポーチ側とバランスに留意しながら計画します。また、母屋用通路と一体となったスペースにすることで狭さも解消します。

北側の建物と南側の離れをつなぐ玄関と中庭 (図-2)

LDKを含むメインの建物と客間のある離れが、玄関と中庭を介して連続しています。

玄関の床材をメインの建物および離れと異なる材料を使うことで、家の中の移動なのにまるで路地を通して旅館の離れ行くような体験を楽しむことができ、ここが単なる通路という用途を超えてこの住宅の魅力の一つになることを期待しています。

また、中庭は玄関アプローチからの風景としての役割も担います。

内外に広がる生活 (図-3)

室内空間の広がり、中庭の向うも自分の家であるようにするために視覚的に障害となるものを極力減らして壁を配置します。

また、敷地南側の離れおよび西側の玄関を計画する建物は、中庭に面した居室への採光や通風の条件をよりよくするために1階分の高さに抑えて計画します。

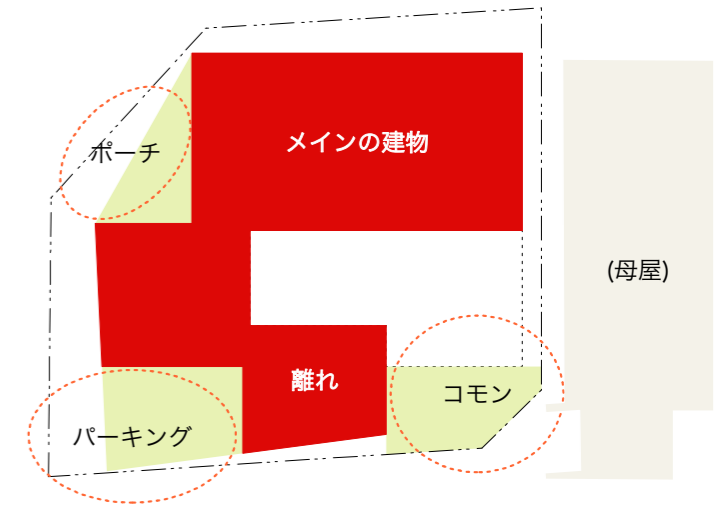


図-1

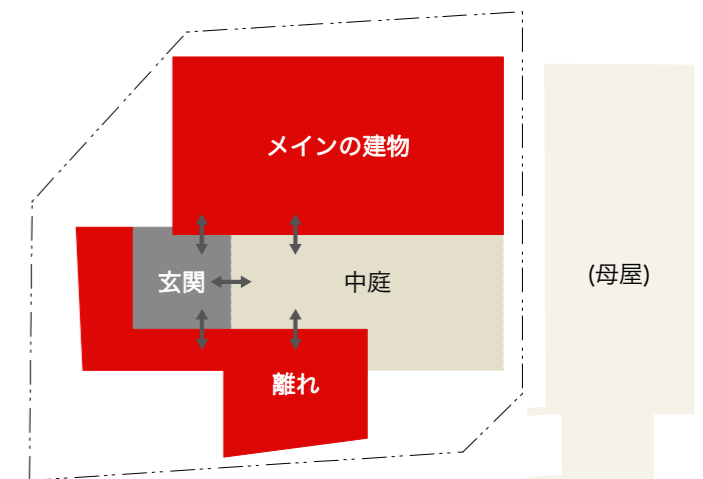


図-2

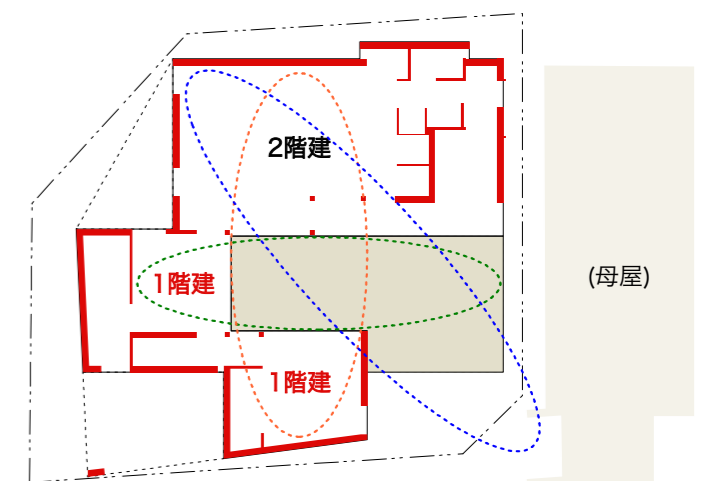
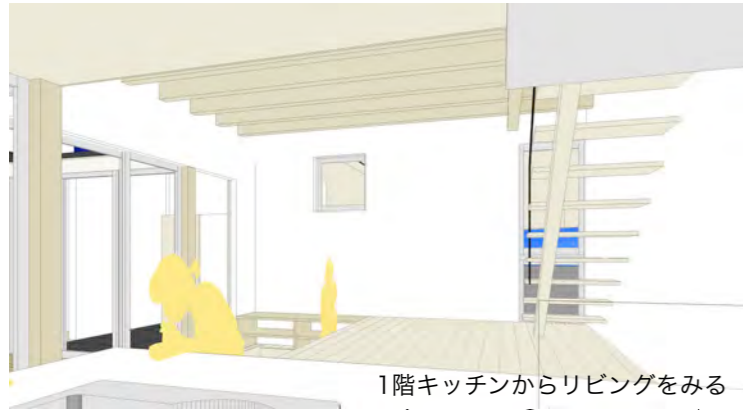


図-3

spiral -ゆるやかにつながる家-



1階キッチンからリビングをみる

キッチン

ペニンシュラ型のキッチンカウンターの背面に冷蔵庫やキッチン家電、食器等を収納できる壁面収納を設けます。

リビングダイニング

リビングの平面的な広さを得るために大きな壁面収納は設けず、床の一部を450mm程高くしてそこに床下収納を設けます。

エントランスギャラリー(玄関)

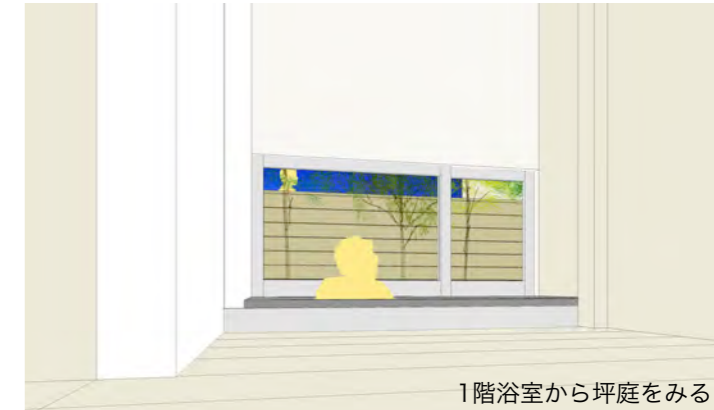
玄関はLDKのあるメインの建物と客間のある離れをつなぐ空間になりますが、あえて石やタイル等の他の場所では用いていない床材を使うことでその空間を強調します。

子供室

この地域は洪水になった場合、浸水深2~5M未満に到達するようなので、水害に備えて貴重品を一時避難させるための場所として最上部にロフトを設けます。

トップライト

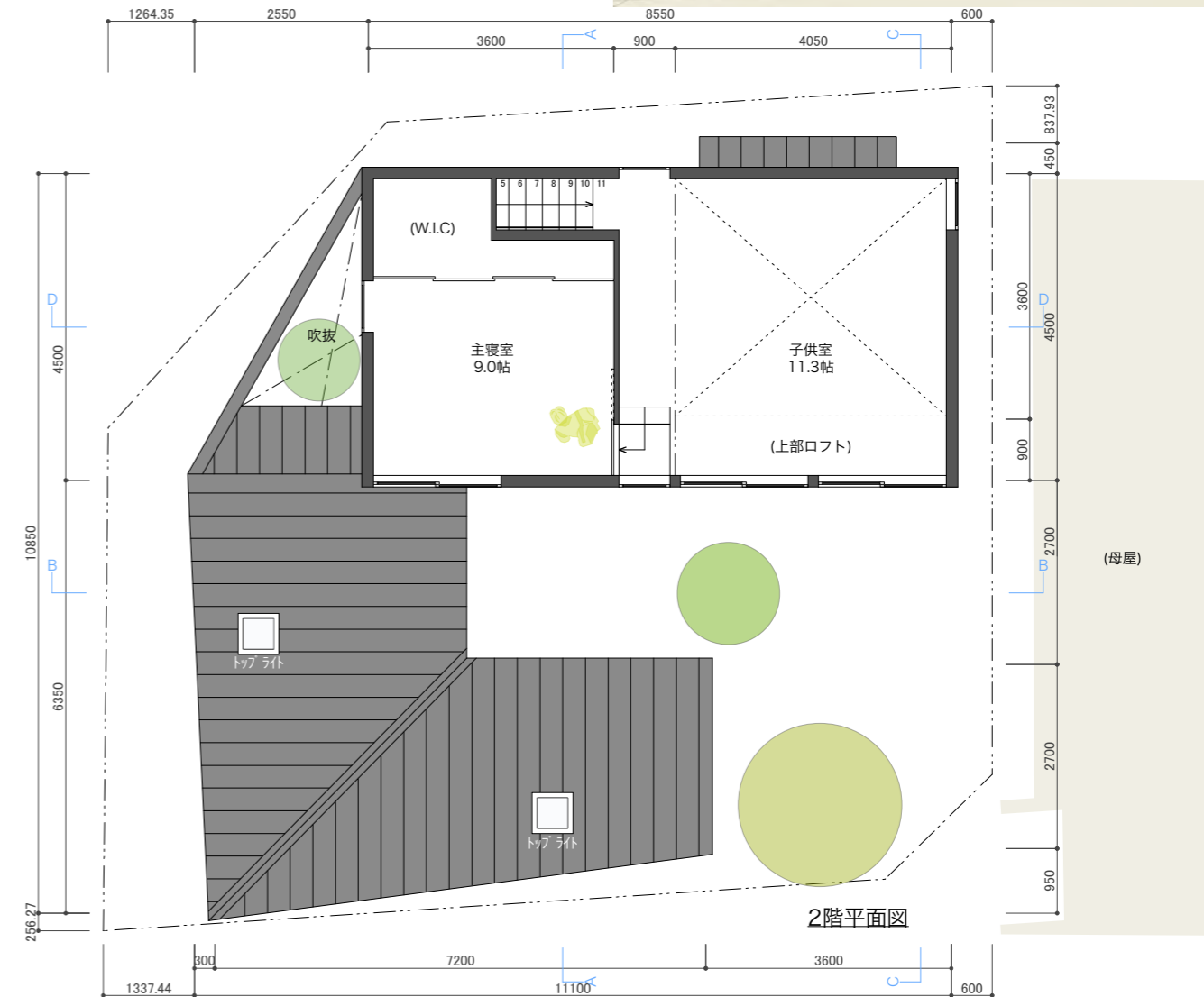
玄関と客間にはトップライトを設けて、採光と通風を確保します。トップライトのメリットは、同サイズの一般の窓に比べて3倍の採光が得られます。そして、上からの光は壁面からの光よりも室内の隅々まで行き渡るという特徴もあります。



1階浴室から坪庭をみる



1階平面図



2階平面図

納戸

アウトドアのご趣味が多いようなので納戸は少し広めにしました。また、納戸の隣にエントランスギャラリーを設けてここでアウトドア用品を広げてメンテナンスをすることもできます。そして、エントランスギャラリーにテーブルや椅子を置くとこちらでちょっとした接客をすることも可能だと思います。

その他

ご夫婦が高齢になって階段の上り下りが大変になった場合、客間を主寝室に変えて1階のみで生活が完結できるように計画しました。

建物概要

敷地面積：138.00㎡ (41.75坪)
 建築面積：68.77㎡ (20.80坪)、建蔽率：49.80% (<50%)
 延床面積：107.25㎡ (32.44坪)、容積率：77.72% (<80%)
 1階：68.77㎡ (20.80坪)、2階：38.48㎡ (11.64坪)
 主な仕様：外壁 モルタルの上リシン吹付、屋根 ガルバリウム鋼板
 LDK・床 フローリング、壁 クロス、天井 無垢板現し
 エントランスギャラリー・床 タイル、壁 クロス、天井 無垢板現し
 客間・床 畳敷、壁 和紙クロス、天井 無垢板現し
 2階・床 フローリング、壁 クロス、天井 無垢板現し

角地緩和の有無について

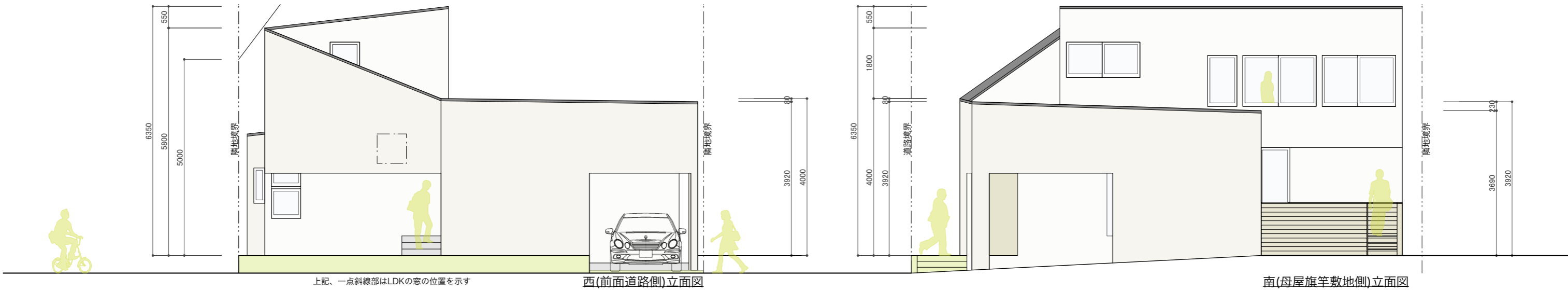
角地緩和適用の敷地は「藤沢市建築基準法施行細則第16条」より前面道路に接道している部分が敷地全周長の3/10以上と定められています。従って、本敷地は敷地全周長が46,127mm、前面道路に接道している部分の長さが13,449mmなので $13,449\text{mm} \div 46,127\text{mm} = 0.29156 < 0.3$ より **現状の分筆では角地緩和の適用はありません。**(弊社が設計した幼稚園のような家も3/10未満だったので適用されませんでした) 弊社を指名していただければ分筆方法もご提案したいと思います。



2階から中庭と離れを見下ろす

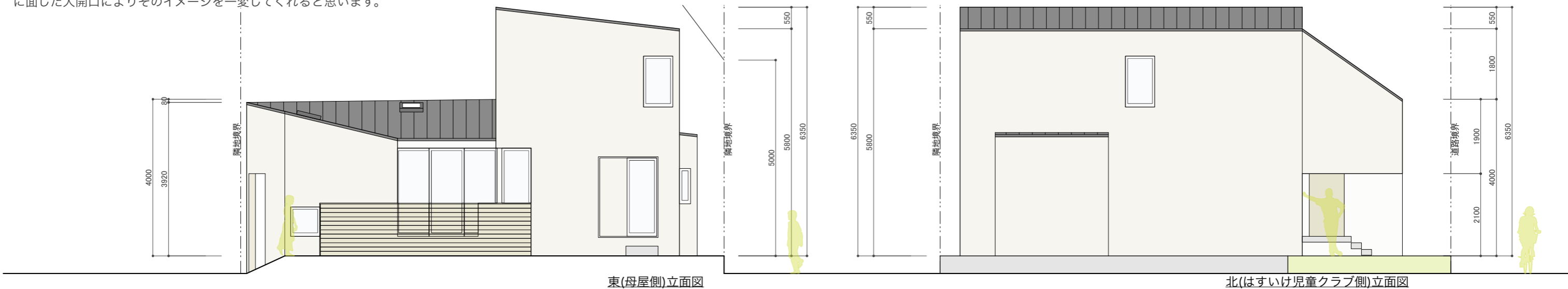
spiral -ゆるやかにつながる家-

人通りや交通量が比較的多いということでしたので前面道路側の窓は最低限にとどめ、設ける場合も歩道から少し距離をとります。 玄関アプローチ上部に設けた台形の壁がLDKに差し込む西日をコントロールして、かつ道路反対側の住宅からの視線も遮ります。

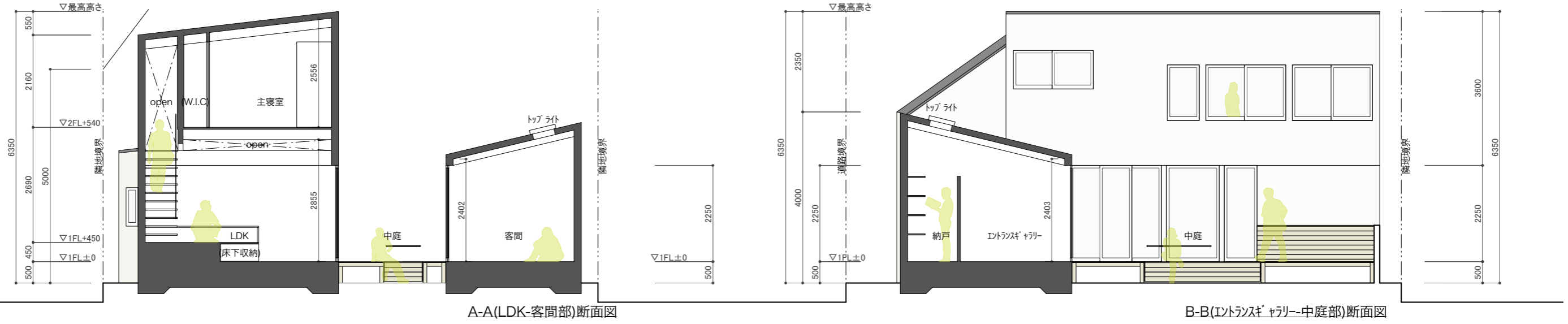


西側の前面道路から見ると、一見建物内が暗いのではという不安を感じるかもしれません。でも、建物内に入るとトップライトや中庭に面した大開口によりそのイメージを一変してくれると思います。

児童の賑やかな声や冬の冷たい空気が室内へ流れ込んでくるのを抑えるために北側の開口部は必要最低限に抑えて計画します。



中庭にテーブルを設置して内外空間に関わらず、全部が一緒にある環境をつくります。



断面図の2階床に「open」という横長のスリットがありますがここから1階への採光や風の通り道を確保します。

天井高を確保するために天井材を用いず、梁や床の下地材などの構造材を露出する仕上げにします。

